






# インフォメーション・コーナー


## 会 告

|   |    |
|---|----|
| ○平成 25 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて  申込締切 3 月 29 日 | 76 |
| ○平成 25 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画締切 2 月 15 日  | 78 |
| ○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い  | 79 |
| ○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い  | 79 |
| ○CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を!  | 80 |
| ○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!   | 80 |
| ○論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属無記名方式に関する意見を募集します (再) 締切 1 月 25 日   | 80 |
| ○論文集の電子投稿・査読システムを導入しました   | 81 |
| ○平成 26 年の表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日   | 81 |
| ○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!  | 82 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い   | 83 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと<br>2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ                                  | 83 |
| ○北海道支部講習会の開催について (第 2 報)  申込締切 1 月 18 日        | 84 |
| ○北海道支部第 36 回研修会の開催について (第 2 報)  申込締切 1 月 18 日  | 84 |
| ○水土文化研究部会第 10 回研究会の開催について (第 1 報)  2 月 25 日開催  | 85 |
| ○平成 24 年度東京フォーラムの開催について  申込締切 2 月 1 日          | 85 |
| ○第 58 回「風に関するシンポジウム」の開催について 3 月 9 日開催   | 85 |
| 学会記事  | 86 |

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日               | 主催       | 行事名  | テーマ   | 開催場所 | 掲載号                   |
|-------------------|----------|--|---|------|-----------------------|
| 平成 25 年 1 月 17 日  | 中国四国支部   | 平成 24 年度シンポジウム        | これからの農業土木技術者のあり方～施設機械に関するストックマネジメントに係る技術力の向上～ | 岡山市  | 80 巻 11, 12 号         |
| 平成 25 年 1 月 23 日  | 北海道支部    | 支部講習会                 | 寒冷地における頭首工の管理について                             | 札幌市  | 80 巻 12 号<br>81 巻 1 号 |
| 平成 25 年 1 月 23 日  | 北海道支部    | 第 36 回研修会             | 北海道におけるレベル 2 地震動を考える                          | 札幌市  | 80 巻 12 号<br>81 巻 1 号 |
| 平成 25 年 2 月 1 日   | 材料施工研究部会 | 第 50 回シンポジウム          | 地域資産としての農業基盤の再生と技術開発 (仮題)                     | 東京都  | 80 巻 10, 12 号         |
| 平成 25 年 2 月 25 日  | 水土文化研究部会 | 第 10 回研究会             | 農村における水車の果たした役割と今後の展開                         | 東京都  | 81 巻 1 号              |
| 平成 25 年 9 月 3～5 日 | 大会運営委員会  | 平成 25 年度農業農村工学会大会講演会  | —   | 東京都  | 80 巻 12 号<br>81 巻 1 号 |

### 第 81 巻第 2 号予定

**展望:** 農村地域が目指すエネルギーのかたち: 星野恵美子

**小特集:** 農業水利施設を活用した小水力発電への取組み

- ① 農業農村における小水力発電の取組み: 松本雅夫ほか
- ② 小水力発電の導入による農業水利施設の活かし方: 後藤真宏ほか
- ③ 独立運転するマイクロ水力発電の経済・環境影響評価: 上田達己ほか
- ④ 岐阜県と愛知県の農業水利施設による小水力発電事例と展望: 大西健夫ほか
- ⑤ 地産地消型の小水力発電プロジェクトと地域活性化への取組み: 左村 公ほか
- ⑥ 土地改良区全額出資の株式会社による小水力発電: 渡邊正弘ほか
- ⑦ スマートビレッジ構想における小水力発電の取組み: 志野尚司ほか

### 技術リポート

北海道支部: 2012 年岩見沢周辺の大雪と用排水路への影響調査: 佐藤修児ほか

東北支部: 八郎湖における植生回復の取組み: 三浦英雄ほか

関東支部: 矩形サイホン耐震対策におけるボックス型鋼管挿入工法: 泉 明良ほか

京都支部: 滋賀県における農業水利施設アセットマネジメントの取組み: 東 崇史ほか

中国四国支部: 高住ため池整備におけるコスト縮減の取組み: 前田欣補ほか

九州支部: ため池改修実施事例: 井上幹生ほか

**小講座:** 効率的な小水力発電システムの設計について: 本橋 元

**私のビジョン:** 再生可能エネルギー導入の取組みから感じること: 安田政彦

## 平成 25 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

研究委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 25 年度農業農村工学会大会講演会は、東京農業大学世田谷キャンパスにおいて平成 25 年 9 月 3 日（火）、4 日（水）、5 日（木）の 3 日間、開催を予定しています。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。今回のご案内は、**講演発表の申込み**に関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌 4 月号でお知らせします。

## 1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込み受付の際、会員番号を確認します。この機会に入会される場合は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/guide/nyukai.htm>) の入会手続きをご参照願います。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12 部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1 人（共同研究の場合は代表発表者）1 課題とします。ただし、**企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めます**。1 人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。①「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、**プログラム編成上、やむを得ず発表形態が変更される場合があります**。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで 6 月末までにお知らせします。
- (6) **講演時間**：①口頭発表は 1 課題 15 分（質疑時間も含む）です。また、企画セッションは 1 セッション 100 分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **要旨集**：(2) にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要（200 字以内）を、概要集に集録します。200 字

を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

- (9) **セッション総括**：各セッションの発表内容ならびにセッション内に割り付けられたポスター発表に関して、セッション総括として担当座長にセッションの最後の 10 分間で実施をお願いしているものです。課題を整理し展望を示していただいたり、セッション全体に関わる総合討論を持ったり、質疑の追加、あるいは延長した発表の調整時間に充てていただきます。

## 2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演原稿一式の提出、および申込料 2,100 円（税込）の納入をもって申込みとみなします。**振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を記載して下さい**。年会費等まとめて支払う場合には費用名も記載して下さい。なお、送金後に発表を取り消されても、申込料の返金はできません。郵便振替用紙は、本誌巻末に綴じ込んであります。
- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め 1 課題 2 ページとします。市販の A4 判上質紙にモノクロで印字した原稿で投稿して下さい。後述の「4. 講演原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD-ROM 版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルを PDF 形式に変換して提出して下さい。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容の Excel ファイルを、必ず提出して下さい。
- (5) 講演原稿 PDF ファイルならびに投稿票 Excel ファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓名）として下さい（例：「nougyou tarou.pdf」, 「nougyou tarou.xls」）。これらファイルを電子メールで zenkokutaiikai@jsidre.or.jp へお送り下さい。メール発信の際、表題（Subject）も代表発表者名として下さい。ファイルを受領・確認後、事務局より受領メールを 2 週間以内に返信します。
- (6) 投稿に当たっては、次の書類等を同封し、表に「講演原稿在中」と朱書きしてご送付下さい。原稿は折ったり、しわにならないよう十分注意して送付して下さい。

## ●送付物

- 1) 大会講演申込料の振替の写し
- 2) 講演原稿
- 3) 講演原稿コピー 2 部
- 4) 投稿票（このデータをもとにすべて作成するため間違いのないよう必ず確認して下さい。）

## ●データ送信

5) 投稿票 Excel ファイル

6) 講演原稿 PDF ファイル

- ・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換した PDF (Portable Document Format) ファイルとして下さい。
- ・ PDF ファイルに、セキュリティ (文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更) の設定をしないようにして下さい。

(7) 締切:平成 25 年 3 月 29 日 (金) 消印有効

(遅延は不可)

なおデータ提出後は修正等差し替えができない場合がございます。

(8) 申込み・問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて  
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3F  
☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494  
E-mail: zenkokutaiikai@jsidre.or.jp  
郵便振替: 00160-8-47993

加入者名: 公益社団法人農業農村工学会

銀行振込: みずほ銀行 新橋支店

普通預金 1167243

3. 投稿票

投稿票は、<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaiikai/>より様式をダウンロードして作成して下さい。

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入し原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は、大会概要集に集録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい。入会手続き中の方は会員番号欄に入会手続き中と記載して下さい。
- (2) 講演概要は、必ず 200 字以内の日本語で記入して下さい (英文不可)。
- (3) 氏名、所属機関、講演題目 (副題も含めて) は、必ず講演原稿と一致させて下さい。
- (4) 投稿票に記載するメールアドレスは間違いのないよう、お願いいたします。
- (5) 講演希望部門 (第 1 希望・第 2 希望) とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは、講演内容にふさわし

いものを文字で記入して下さい。

4. 講演原稿の書き方

- (1) 原稿用紙は、A4 判 (横 210 mm, 縦 297 mm) の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。

上: 25mm, 下: 27mm, 左: 23mm, 右: 25mm

- (2) 書式

① 文字: 文字は、10.5 ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS 明朝、MS ゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。また、機種依存文字 (①, ②, … I, II, …等) も使わないで下さい。上下左右のマージン内いっぱい、1 行 40 字、1 ページ 40 行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

② 題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1 ページ目第 1 行と第 2 行に中央に寄せ、12~14 ポイントで和英併記して下さい。講演者氏名は、第 4 行と第 5 行に中央に寄せ、10~12 ポイントで和英併記して下さい。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず〇印をつけて下さい。

所属は、1 ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9 ポイントで 1 行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に\*や\*\*を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

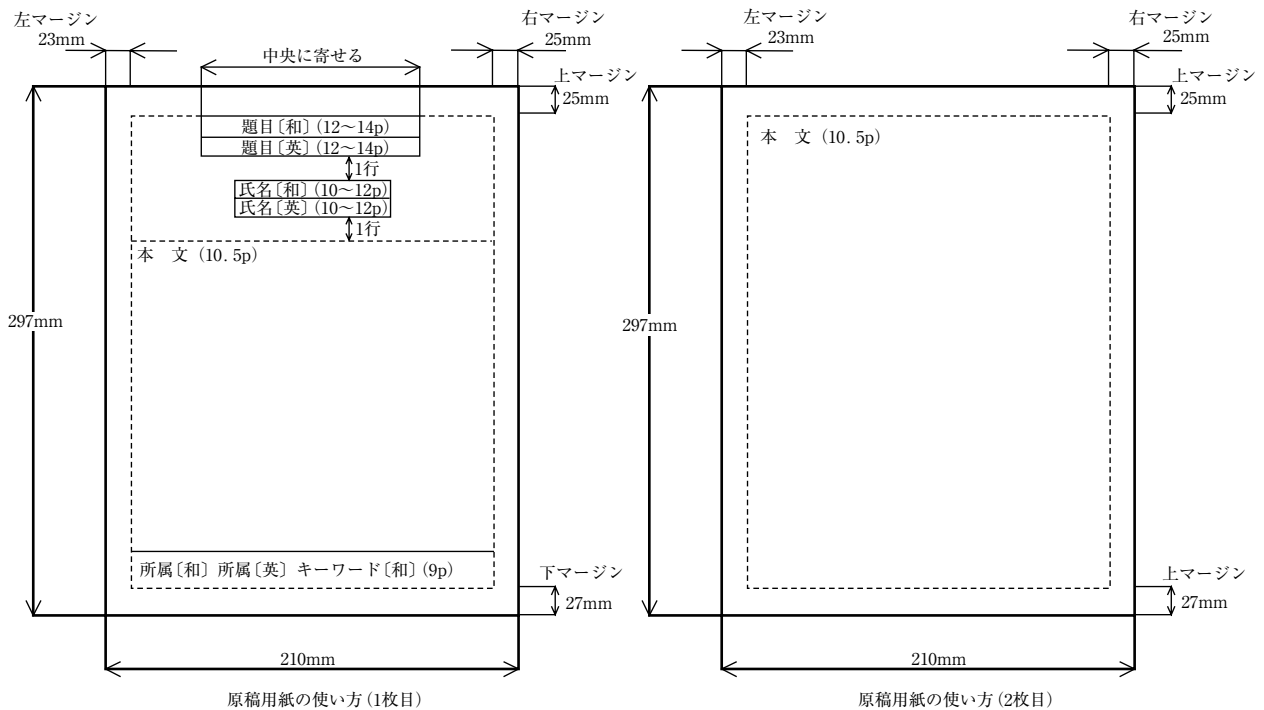
本文は、第 7 行から書き始めて下さい。2 ページ目は第 1 行から書いて下さい。

③ 図・表・写真: 本文とともに原稿用紙内に書込み (あるいは貼込み)、幅いっぱいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、モノクロ印刷に耐えうる解像度の図・表・写真をお願いします。また、図表の表題にも英語を併記して下さい。

- (3) 原稿は、モノクロで、B5 判に縮写し製本します。

5. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権 (著作財産権、コピーライト) は、(公社) 農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構 (JST) に提供されます。



## 平成 25 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について

### 研究委員会

平成 25 年度大会講演会 (9 月 3 日~5 日, 東京農業大学世田谷キャンパス) における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は 2 月 15 日 (金) です。お申込みに当たって、下記事項を学会事務局 (zenkokutaikai@jsdre.or.jp) まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ: 「オープン・タイプ」, 「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要 (200 字以内)

なお、類似した企画が提案された場合、調整をお願いすることがあります。企画の採否については、研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は、特定のトピックについて、原則 100 分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が

独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低 2~3 名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用して下さい。

企画セッションでの発表者は、**企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが、複数の発表は認めません**ので各オーガナイザーは発表者選定に当たり、この点に十分留意して下さい。

なお、企画セッションも要旨集に講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは 100 分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が 100 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

**各企画セッションの申込料は、講演題数にかかわらず一律 12,600 円となります。**

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの**募集締切**

2 月 15 日 (金)

2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡

3月8日(金)頃

3月29日(金)

3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)

3月11日(月)頃

4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切

3月19日(火)

5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切

申込み・問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3F

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : zenkokutaikai@jsidre.or.jp

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成23年度までに61件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

#### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局(FAX 03-3435-8494, E-mail : saigai@jsidre.or.jp)までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報は、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

## CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！

農業農村工学会技術者継続教育機構では、急激な登録者数の増加による研鑽記録審査量の増加や、CPD を取り巻く社会の利用状況の変化に対応すべく、研鑽記録の提出について「Web システム」を、平成 24 年 2 月下旬より導入しました。

Web システムを利用して研鑽記録をご提出いただければ早期に CPD ポイント取得結果を確認することができ、当該年度内であっても証明書の発行が可能となりますので、是非とも

Web システムをご利用下さいますようお願いいたします。

なお、当面は従来の Excel 形式での「継続教育記録ノート」の提出も受け付けますが、その場合の審査結果は従来どおり「8 月送付」となります。

詳細については、技術者継続教育機構のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご覧下さい。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

### 行事企画委員会

#### 技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、技術者継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、CPD 単位取得を在宅で手軽に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回 80% 以上の解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。是非、通信教育へご解答をお寄せ下さい。

なお、平成 24 年 3 月号で「今後は Web 画面上のみで受付と周知いたしましたが、平成 25 年 (Vol.81) 2 月号の解答受付分までは従来の Excel ファイルでの解答も受け付けさせていただきます。

#### 1. 解答資格

解答ができる資格としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会および技術者継続教育機構の CPD 個人登録をされていない方は、まず農業農村工学会のホームページから入会申込書をダウンロードし入会手続きを行い、農業農村工学会員番号を取得された後、技術者継続教育機構の Web 画面上から新規登録手続きを行って下さい。

#### 2. 出題方法

出題は 3 カ月前に発行された学会誌の報文等の事実的な内容から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し学会誌上に掲載

します。問題は択一式で、毎回 10 問を出題します。

#### 3. Web 利用登録と解答方法

Web で解答をするためには Web 画面上で「Web 利用登録」をして下さい。(Web 画面上で解答ができるようになるまでには、登録に約 1 週間程度を要します。)「Web 利用登録」をされた約 1 週間後に、Web 画面上で解答画面にアクセスし、正解と思う番号を入力し、送信して下さい。

#### 4. 解答期限

解答期限は「問題掲載月号の翌月末日まで」です。期限を過ぎた解答の受け付けは一切できませんので、十分ご注意下さい。なお、解答期限内であれば、Web 画面上で何度でも解答を訂正し送信することができますが、その場合は解答期限の直近に送信をした解答が有効となります。

#### 5. CPD ポイントの採点と取得結果の照会可能時期、およびポイント集計年度区分

採点は解答期限後に行い、全問正解で 2 CPD ポイント、7~9 問正解で 1.5 CPD ポイントを自動的に登録いたします。取得した CPD ポイントは解答期限の約 1 カ月後に Web 画面上で確認することができ、CPD 取得証明書の発行が可能です。なお、通信教育における当該年度分 CPD 取得ポイントとは、前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月に出題された問題への解答に該当します。

\*解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

## 論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属無記名方式に関する意見を募集します (再)

### 論文集企画・編集委員会

論文集企画・編集委員会では、現在、論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記名方式について検討しているところですが、平成 24 年度第 2 回委員会 (平成 24 年 10 月 22 日開催) において、投稿原稿の氏名・所属を無記名で査読している従来の方式から、著者が投稿時に原稿の氏名・所属の記名または無記

名を選択できる方式に変更するとの結論に至りました。しかしながら、本変更を実施する前に広く会員からの意見を聴取すべきであるとの指摘もありましたので、会員皆様からの意見を募集します。

今後、提出いただきました意見をもとに検討し最終決定する

こととしております。なお、記名式も選択できることに関しての判断は以下のようなことが考えられます。

- ・ 査読者は著者の過去の論文等を積極的に参考できる。
- ・ 無記名にするのは論文等を改変することになる。
- ・ 他学会等の論文等査読はほとんどが記名方式である。
- ・ 記名により偏りのある査読判断になる可能性はある。

下記の要領にしたがって、積極的にご意見をお寄せいただき

ますようお願いいたします。

記

1. 意見の提出方法および提出先

メールによる提出のみ受け付けます。

提出先 E-mail : ronbun@jsidre.or.jp

2. 意見の提出締切日 平成 25 年 1 月 25 日 (金)

論文集の電子投稿・査読システムを導入しました

論文集企画・編集委員会

論文集企画・編集委員会では、電子投稿・査読システムを平成 24 年 3 月 26 日より導入いたしました。

利用システムは現在世界的に広く普及している ASP (Application Service Provider) の Editorial Manager です。Editorial Manager はすでに水文・水資源学会や地盤工学会で導入されており、日本でも実績があります。

新規投稿は電子投稿・査読システムでの運用となります。た

だし、平成 24 年 3 月 25 日までに投稿され審査中のものについては、本システムの利用はできません。

「投稿の手引き」(学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/> に掲載) を熟読の上、ご投稿下さい。

投稿先 URL

<http://www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/index.html>

平成 26 年の表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会

学会誌企画・編集委員会では、平成 26 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 82 巻 (平成 26 年 1～12 月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで (デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定) 撮影して下さい (サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 秋季～冬季 平成 25 年 3 月 31 日

春季 平成 25 年 6 月 30 日

夏季 平成 25 年 9 月 30 日

6. 審 査 審査委員会 (編集委員と写真家) で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 82 巻第 1 号で採作品と掲載号を発表し、採作品は平成 26 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採作品には規定の賞金 (1 点につき 3 万円) をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採作品の使用権は (公社) 農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙

写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

## 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用

カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌企画・編集委員会

## 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

## 学会誌 81 巻の小特集のテーマ

| 小    | 特   | 集                                 | テ | ー | マ | 要 旨 縮 切<br>(A4判<br>1,500字以内) |
|------|-----|-----------------------------------|---|---|---|------------------------------|
| 81 巻 | 2 号 | 農業水利施設を活用した小水力発電への取組み (仮)         |   |   |   | 公募終了                         |
|      | 3 号 | 農山漁村地域の再生に向けた GIS 活用の事例、課題と展望 (仮) |   |   |   | 公募終了                         |
|      | 4 号 | 農作物の高温障害対策への農業用水の効率的な利用 (仮)       |   |   |   | 公募終了                         |
|      | 5 号 | 地方の公的研究機関などにおける農業農村工学研究 (仮)       |   |   |   | 公募なし                         |
|      | 6 号 | 平成 25 年度学会大会特集 (関東支部) (仮)         |   |   |   | 公募なし                         |
|      | 7 号 | 身近に起きている農業農村の災害—災害列島日本の現実 (仮)     |   |   |   | 2 月 15 日                     |
|      | 8 号 | 老朽化したため池の整備 (仮)                   |   |   |   | 3 月 15 日                     |
|      | 9 号 | ダムの役割を問いなおす (仮)                   |   |   |   | 4 月 15 日                     |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたしま

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

## 81 巻 7 号テーマ「身近に起きている農業農村の災害—災害列島日本の現実」(仮)

2011 年 3 月 11 日、わが国は東日本大震災に襲われ東北地方太平洋沿岸を中心に大きな被害を受けました。この震災については本誌でも特集として取り上げるなどしてきました。また、その後も梅雨末期、台風等による風水害など農村地域に大きな被害をもたらした災害が発生しています。これに対し、わが国では地域などが限定された比較的規模が小さい災害も多く発生しています。たとえば新潟県の頸城丘陵では、毎年春先になると融雪に伴う地すべりの報道が繰り返されます。また、昨年の大震災においても、津波などによる壊滅的な被害だけでなく、震源からある程度離れた関東地方においても液状化による水田などの被害が発生し、さらに 3 月 12 日の長野県北部を震源とする地震によって長野県、新潟県内でも農地災害などが発生し

ています。

一方、被災した側から見た場合、個々の農家が受けたダメージは災害全体の規模には関わりがありません。災害については、全体の規模だけでなく、被災当事者からの視点も必要です。また、災害への地道な対応の積重ねは、農村地域の安全ひいては国土の保全に貢献しています。さらに、広範囲に被害が及んだ大災害の場合には、被災地の中で被災が比較的軽度であった地区の復旧を早期に図ることで地域全体の農業生産活動の影響を最小限にすることができます。

災害が頻発する中で、安全な農村、国土を築いていくため、身近に起きた小規模な災害の事例や復旧復興事例などについて会員の持つ経験や技術の報文を広く募集します。



国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが0.986と高く、モンソーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社 : Springer-Japan 社

発行スケジュール : 年4回 (3, 6, 9, 12月)

購読料 : 正会員 12,000 円

学生会員 (院生含む) 8,500 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2012年12月末に Vol.10, No.4 が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=0.986 と高い評価を得ております。

また、世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局 : Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581

Fukuoka, Japan

TEL : +81-92-642-2909 FAX : +81-92-642-2914

E-mail : [yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp](mailto:yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp)

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 13カ国から23名

・ Editing Board 35名

・ Managing Editors

Chief Management Editor : Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering  
National Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等：http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

### 北海道支部講習会の開催について（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 日時 平成25年1月23日（水）9:30~11:40
- 会場 北海道大学学术交流会館2階 講堂  
(札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ)
- テーマ 「寒冷地における頭首工の管理について」
- プログラム  
9:30 開会  
9:40~10:40 「土地改良施設管理基準—頭首工編—の改定」  
農村振興局整備部水資源課施設保全管理室 佐藤 功  
10:40~11:40 「頭首工の管理における洗掘と堆砂について」  
(株) アルファ技研第1事業部 高井和彦
- 参加申込み  
E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。  
参加申込締切は平成25年1月18日（金）です。

<北海道支部講習会参加申込書>

|        |     |    |
|--------|-----|----|
| 所属機関   |     |    |
| 同上所在地  |     |    |
| 申込代表者  | TEL |    |
| E-mail |     |    |
| 氏名     | 所属  | 備考 |
|        |     |    |
|        |     |    |

#### 6. 申込み・問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内  
農業農村工学会北海道支部事務局  
担当：柏木淳一 E-mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp  
☎ 011-706-3641 FAX 011-706-2494

#### 7. 参加費用

会員：1,000円 非会員：2,000円  
(当日会場にて申し受けます。)

### 北海道支部第36回研修会の開催について（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 日時 平成25年1月23日（水）13:00~16:30
- 会場 北海道大学学术交流会館2階 講堂  
(札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ)
- テーマ 「北海道におけるレベル2地震動を考える」  
重要度の高い土地改良施設の耐震設計では、「起こるかも知れない」大地震動（レベル2地震動）に対しても、損傷を限定されたものととどめて人命への二次災害や経済的損失を極力抑えることが求められています。都府県に比べて古文書など過去の地震の情報が少ない北海道で、「起こるかも知れない」大地震動をどのように考えるかは重要な問題です。近年、各種の観測体制が整備されるとともに、津波堆積物の調査が進んだことで、北海道における地震のメカニズムや過去の発生履歴についてたくさんの成果がすでに得られています。農業農村工学分野の技術者が、「起こるかも知れない」大地震を考えると、これらの最近の成果は貴重な知見になるでしょう。北海道の周辺海溝・内陸でどのようなメカニズムが作用しているのか、想定される地震による強震動予測はどこまで進んでいるのか、東日本大震災ではどのような強震動被害があったのか、といった話題について専門家を招いて解説していただきます。
- プログラム  
13:00 開会

- 13:05~14:05 「北海道の地震環境」  
北海道大学名誉教授 笠原 稔
- 14:15~15:15 「強震動とその予測」  
元北海道大学大学院工学研究科教授 笹谷 努
- 15:30~16:30 「東日本大震災における農業基盤施設の強震動被害」 農村工学研究所 鈴木尚登

#### 5. 参加申込み

E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。  
参加申込締切は平成25年1月18日（金）です。

<北海道支部第36回研修会参加申込書>

|        |     |    |
|--------|-----|----|
| 所属機関   |     |    |
| 同上所在地  |     |    |
| 申込代表者  | TEL |    |
| E-mail |     |    |
| 氏名     | 所属  | 備考 |
|        |     |    |
|        |     |    |

#### 6. 申込み・問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内  
農業農村工学会北海道支部事務局  
担当：柏木淳一 E-mail: kashi@env.agr.hokudai.ac.jp  
☎ 011-706-3641 FAX 011-706-2494

#### 7. 参加費 2,000円（当日会場にて申し受けます。)

### 水土文化研究部会第10回研究会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



（社）農業土木学会のビジョン『新たな〈水土の知〉の定礎に向けて』において、「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されている。

そこで、在来型および発電水車を対象として、「農村における水車の果たした役割と今後の展開」と題して、第10回水土文化研究会を開催する。

1. 日 時 平成25年2月25日（月）13:00～16:00
2. 場 所 農林水産共済組合南青山会館  
〒107-0062 東京都港区南青山5-7-10  
☎ 03-3406-1365

3. プログラム（表題は変更されることがあります）  
講演

「武蔵野台地南部の水車の用途の変遷」

産業考古学会水車と臼分科会代表 小坂克信

「中国地方の小水力発電所60年の歴史に学ぶ」

イームル工業（株）顧問 沖 武宏

質疑応答

4. 参加料 無料

\*（社）土地改良建設協会研修会との連携行事となっています。

### 平成24年度東京フォーラムの開催について

主催：全国農村振興技術連盟・公益社団法人 農業農村工学会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. テーマ

新基本計画以降の農政の動きと平成25年度予算の概要  
～我が国農業・農村の防災・減災対策の推進に向けて（仮題）～

2. 開催日 平成25年2月21日（木）9:50～16:50  
受付は9:15から行います。

3. 場 所 東京都千代田区北の丸公園2-1 科学技術館 B2F  
サイエンスホール ☎ 03-3212-8485

4. プログラム 検討中

5. 参加費 8,000円（参加費は当日会場にて申し受けます。）

6. 申込締切 平成25年2月1日（金）

7. 申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

全国農村振興技術連盟

☎ 03-3434-5407 FAX 03-3578-7176

申込方法等の詳細はホームページ（<http://www.n-renmei.jp/>）をご覧ください。本フォーラムは、技術者継続教育機構会員のCPD5単位（申請中）にカウントされます。また、農業土木技術管理士の資格更新に必要な研修に代わる研修になっています。

### 第58回「風に関するシンポジウム」の開催について

1. 日 時 平成25年3月9日（土）13:30～17:00

2. 会 場 日本大学文理学部3号館3203号教室  
（最寄駅：京王線・下高井戸または桜上水から徒歩12分）

3. 特別講演 「風のシンポジウム50年の歴史を振り返って」  
筑波大学名誉教授 吉野正敏

4. 一般講演発表 公募 7～10題

5. 主 催 日本地理学会

6. 共 催 農業農村工学会ほか16学協会

7. 問合せ先

日本大学文理学部地球システム科学科 山川修治

E-mail: syamaka@chs.nihon-u.ac.jp